

7/16

滞在型観光について考える まちづくりセミナー

農山漁村の歴史的資源などを活用した地域活性化について考えるセミナーが市役所で開催され、約 50 人が参加しました。6 月に市と連携協定を結んだ株式会社 NOTE の藤原 岳史社長は「古民家を活用した観光まちづくり」と題し、空き家が負の遺産ではないことを強調しながら、兵庫県丹波篠山市の限界集落で空き家が解消された事例を紹介しました。



その後、南砺市井波地域で彫刻家などの職人と連携した宿泊施設を運営している株式会社コラリアルチザンジャパンの山川 智嗣社長は「観光客と職人の新たな付き合い方」と題して講演しました。参加者は氷見市のこれからを考えながら、他市の地域活性化の事例を真剣に学んでいました。

今後、市と株式会社 NOTE は、滞在の目的地となる古民家を改修した宿泊施設などの拠点整備事業などに取り組んでいきます。

7/20~

親子で学ぼう！水辺の生き物教室 親子とんぼ教室

7 組の親子 15 人が参加し、第 24 回親子とんぼ教室が 6 月から 8 月までの 4 回にわたり開催されました。

これは、トンボなど水辺に生きる生き物の生息環境の観察や採集、標本作りを通して、環境や自然の大切さについて理解を深めるために、毎年開催されている教室です。

一度参加すると 2 年、3 年と続けて参加する児童も多く、小学生の時に教室に参加していた青年が、指導者の一人として子どもたちにトンボのことを教えています。

1 回から 3 回まで、乱橋池やイタセンパラ保護池周辺でトンボの採集を行い、最終回で標本を作製します。

池の周辺では、子どもたちが、虫かごを肩にかけ、網を片手に持ち息をひそめ、真っ赤な「ショウジョウトンボ」やひらひらと飛ぶ「チョウトンボ」に狙いを定めていました。



7/27

ひみ第九 4 パート初合同練習

市内で 11 月 17 日に開催予定の「ひみ第九～はじめの一步コンサート～」の練習が 6 月から行われる中、初となる 4 パートの合同練習が中央公民館で行われ、約 100 人がこれまでの練習の成果を披露しました。

指導者であるテノール歌手、澤武 紀行氏がソプラノ、アルト、テノール、バスのそれぞれのパートの重要性を説明。「体育館は響くから、まずはこのホールで思い切り練習をしてほしい」と澤武氏が指導すると、それに応えるように小学生を含む老若男女が力強い歌声を響かせました。

澤武氏は参加者の緊張をほぐすように「オペラ歌手っぽく」などと笑いも交えながら、楽しい雰囲気での練習が行われました。



7/28

夏の思い出を、みんなで 竹ドームコンサート

14回目の竹ドームコンサートが夏の訪れに合わせて湖南小学校で開催されました。

これは、湖南小学校と十三中学校の児童・生徒や保護者、地域住民の皆さんが一体となり整備・管理する飯久保地内の竹林で、毎年開催しているイベントです。

雨天により、今年は体育館での開催となりましたが、会場には大きな竹が左右からしなるように飾られ、竹が空間を包み込む竹ドームの雰囲気醸し出されました。

コンサートでは、竹で作った楽器の演奏などを交えた湖南小学校と十三中学校の児童・生徒による合唱がそれぞれ披露され、会場は美しい歌声と雨の音もかき消すほどの大きな拍手に包まれました。

また、シンガー英樹&ハニーグレースやっこによる歌唱や氷見有磯太鼓保存会による演奏、シンセサイザー(電子楽器)演奏者 滝沢 卓氏の音楽と映像が織りなすアートが会場を盛り上げました。



8/4

地域で実践する介護予防 地域回想法研修会

市内外の介護事業所に勤める専門職員や回想法に興味・関心のある約40人が参加し、ほっこり回想クラブひみが主催する地域回想法研修会が中央公民館で開催されました。

このグループは、市立博物館が数年前に開催した民具を活用した「回想法講座」をきっかけに、富山福祉短期大学の牛田 篤氏(現同朋大学講師)の後押しなどにより、市内で活動するメンバーを中心に2年前に発足しました。

「回想法」とは、昔のことを思い出し、周りの人と楽しい時間を過ごすことで、認知症の予防にもなる心理療法の一つで、世代間交流や地域活動としても取り入れられています。参加者は実践事例の紹介や、効果的な関わり方などを熱心に書きとめながら、牛田氏の説明に聴き入っていました。



8/4

～めざせ 世界農業遺産・日本農業遺産～

氷見の歴史や産業、先人たちの知恵を学ぶ市民講座

市では、去る5月23日に開催された第1回氷見農業遺産推進協議会総会において、何世代も継承されてきた氷見の農林水産業と文化や景観などを将来に引き継ぐべく「農業遺産」への認定を目指すことを決定しました。

その一環として、中央公民館では第1回市民講座が2部構成で開催されました。

始めに氷見の定置網の歴史や長年受け継がれてきた漁業者たちの知恵、また漁業・農業・林業が稲わらなどを通して密接に関わりながら築いてきた社会経済の仕組みなどの解説がされた後、参加者は博物館の展示を見ながら理解を深めました。

次に歴史に見る氷見のまちなかの変遷や産業・特産物、また先人たちが活路を探ってきた産物の経済循環などについて解説があり、参加者からは活発な質問も寄せられました。

市民講座は、全3回シリーズで開催されます。

※次回について詳しくは、広報ひみ9月号6ページをご覧ください。



8/5

空き家・空き店舗の活用へ

ひみまちづくりファンド設立

市の中心市街地の空き店舗や空きビル、空き家の活用を支援する「ひみまちづくりファンド」の設立記念セレモニーが市役所で行われました。

このファンドは、氷見伏木信用金庫が一般財団法人民間都市開発推進機構と連携し、民間事業者が空き店舗などを飲食や物販、宿泊施設などに活用・運営する事業に投資し、地域活性化に貢献することを目的としています。

同種のファンドとしては全国で13番目、北陸では初となるもので、氷見伏木信用金庫の藤井 隆理事長は「新しい事業者を誘致し、中心市街地の魅力を高めたい」と意欲を述べました。



地方創生に係る包括連携に関する協定書に基づくまちづくりに関する覚書調印式



今後は、JR 氷見駅からひみ番屋街を結ぶ中心市街地において、年内に第1号の事業化を目指します。

セレモニーに先立ち、氷見伏木信用金庫と氷見市の「ひみまちづくりファンド」事業に協力する覚書の調印式が行われました。これは、平成29年2月に締結した「地方創生に係る包括連携に関する協定書」に基づくもので、市は今後も情報提供や各種施策を通して協力していきます。

8/12

触れて遊んで親子で体験！ キッズプログラミング教室

氷見市キッズプログラミング教室が開催され、市内の小・中学生とその親子約200人が、さまざまなプログラミングにチャレンジしました。

これは、来年度から小学校で「プログラミング教育」が必須化されることを受け、子どもたちがプログラミングを楽しく体験できる場を創り興味を持ってもらうことで、円滑に授業に取り組めることを目的としています。

子どもたちは、パソコンを使ってゲームを改造しながらクリアを目指す「HackforPlay^{ハックフォープレイ}」や、タブレット端末で描いた絵をスクリーンに映し動かす「お絵かきプログラミング」に挑戦。また、電子工作で光るキーホルダーやブレスレットを作るコーナーなどもあり、親子で楽しみながらプログラミングを体験していました。

教育委員会では、10月22日(火・祝)と12月15日(日)にもキッズプログラミング教室の開催を予定しています。

これからの時代に必要なプログラミングを親子で体験してみませんか？

※今後の開催日程などの情報は、市ホームページでお知らせします。

